

ゐた、途中でしゃべりくたびれて腹が減ってしまつて、おでんやへ行つておでんと茶飯を食つた、二人で食つて五十五銭安いんでおどろいた、それから帰つて来てまたしゃべつた。小田島にかぎらず近頃はまた誘ひだされて俳句の友人達によく会ふ。どんな友人の間にあるより、やつぱり昔からの俳句の友人の中にまぢる事が一番安らかで楽しい、みんな子供に還つたやうに大笑ひばかりして、終電車までは何処にゐても別れやうとしない。

この間大阪の假寓にゐる水巴先生から、悲痛な手紙をつづけて二本いただいた、明日あたりまたいただくかもしれない。そんな手紙を見るとすぐにそちらへ飛んで行つて先生に逢ひたくなつていけない。欣也も元氣よし、大久保もお変りなし、大久保からは伊東のお父さんの処へ大変に親切な手紙をやつて下さつたさうだ、どうも大久保からあんまり世話にばかりなつて大いに恐縮してゐる、が、また、そのうちには、親切のお返しので出来る事もあらうと、それを待つてゐる。

初代も今年は学校を卒へる、この間お母さんのハガキにはミシンとかをやらせたいといふやうな事があつた、それもよからう、まだ十八なんだから結婚なんてここ四五年は要はない、(中略)

こんな事を書いたらきりがないから、これでやめる、何だかひどく乱暴な変な手紙になつた、あしからず

鈴木氏にもどうぞよろしく

目黒にて 兄

■(大正13年)八月二十四日投函 鈴木三千代宛

度々のお便りうれしく読んでゐます。鈴木氏はじめお変りもない御様子何よりです(中略)そちらも久し振に慈雨があつた由、こちらも昨日一日は烈風今日はおしるしほどの雨、これで少し涼しくなるかと思ふとまた明日あたりからは九十度にのぼる暑さに返るとか、暑さは何にしても閉口です。

さて度々お案じ下さる身体の具合、非常によろしいと申したいが実は其だ少しづつよろしい。どうせ長いのは覚悟してゐるのだから驚きません、何時癒るともなく治つてゐるといふのが由来島本の治療法のだからこれが寧ろ順調ではないかと思ひます(中略)薄紙をはがすやう、この言葉があてはまるやうです。そんな具合ですから、長いにも長いでせうが、案じないで下さい、やがて涼風がたち、もう少し腹に力が出来たら少しづつ運動をはじめて、うんと御飯をたべ、冬が来るまでにはうんとよくするつもりでゐます(中略)この頃妙にフライ、カツレツの俗人の食ひ物が食べたくなつてフライパンを一つ買いました、どうせ買ふなら目黒あたりのチャチなのよりしつかりしたのを慾しいと思つて、金五円亮之助に持たせて市内から買つて来させました。処が買つて来たのを見ると、大きさは手頃ながら、いやにベカベカで畳の上へ置くと手の方の重みでひっくりかえる心細さに、値段を聞くと金二十九銭。資生堂のアイスクリームより一銭安いには少々あきました、これなら目黒の金物屋を探した方がはるかに上等があつた筈です。然し日本橋の大きな店で買ったといふので、まさか使へないものもあるまいとあきらめて、以来それを使用して、豚をあげ鮭をあげ馬鈴薯をあげ甘藷をあげてこの数日